

少しでも、河渡の郷に 興味を持った全ての方へ。

この冊子は、河渡の郷が新入社員全員に対して取り組んでいる
プリセプター制度について読みやすくしたものです。

あるところに、
さとっちゃんといふ
人のために何かしたいといふ
青年がありました。





人のために頑張れる
仕事だと思った
さとっちゃんは
やる気満ち溢れます。

さとっちゃんは、
ある日友達の紹介で
「こうどのさと」という、
施設で、
働くことになりました。



それから、毎日が
新しい発見で、
いっぱいでした。



人の役に立つことが
自分の喜びにつながっているんだと
実感てきて充実した毎日です。



「こうどのさと」が
取り組んでいる
「プリセプター制度」の
おかげで、できなかつたことも
できるようになってきて
自分の成長も感じられました。

プリセプター制度とは

プリセプター制度は、一人の新人介護士に、一人の先輩介護士がついて指導し、業務を覚えていく教育システムです。

不安でいっぱいでも、大丈夫。5年以上のベテラン介護士がわからぬことを教えてくれるだけでなく、

精神面もサポートします。もちろん、チーフやリーダー、サブリーダーなど、チームで新人介護士を見守っていきます。

ひとりだちするために、

毎日から1か月、3か月、6か月、1年と、

定期的にチェック表をもとに

フォローアップを行い、

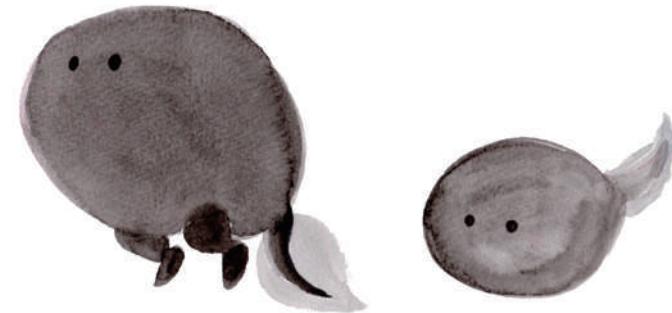
不安などをひとつずつ解決していきます。

毎日、成長できる自分に
向き合うことができる。

先輩介護士が密着して指導してくれるおかげで
何もわからなかつた新人介護士が1年間で
ひとりだちできる教育システムです。

1年間でおぼえられるかな。と不安になる人でも、
その後も、手厚くサポートしていくため、

安心の教育システムなんです。



そんな、ある日のこと
何年かご利用されていた
ご利用者さまの
担当になりました。



失輩介護士が担当だったため、
さとつちゃんは、
やる気に満ち溢れていきました。



その方のもとへ、行き
ベッドから体を起こそうとした
その時です。

「佐藤さんどこいったらっか。」

「あの人じやねとダメられて」

「あんたじや話になんねて」

と、さとっちゃんに言つてきました。

さとっちゃんはそれでも、

その方に喜んでもらおうと頑張ります。が、

「だつて、ダメら言うたるも」

「あんたじや話になんねて！」

「わからんかね！」

と、とうとう怒らせてしまったのです。



さとつちやんは、怒らせてしまったことに
ショックをうけました。



その日から、仕事が何も
手につかなくななりました。
壁にぶつかったのです。



楽しかった毎日が
嘘のように
来る日も、来る日も
あのことを忘れる日は
ありません。

そんな、さとつちやんを見かねた
失輩介護士が声をかけてきました。

「さとつちやん大丈夫？」



さとつちやんは、
あの日のこと、
それから仕事が
手につかないこと、
毎日がつらくなってきていることなど
全て打ち明けました。



「さとっちゃんの話をすべて聞いた
先輩介護士はにつこりと笑って
こう言いました。

「さとっちゃんは
本当にこの仕事が
大好きなんだね。」

「僕と一緒にだ。」



「いいかい。
そこまで悩んでいるのは
本当に好きな証拠
本気だから悩むんだよ。」

「僕も同じ壁にぶつかった
経験をしてるんだよ。」

それを聞いたさとっちゃんは、
少し気が楽になり、
少しづつ、あの日のことに
向き合えるようになりました。

向き合えるようになると
自然と表情も明るくなり
以前のやる気も
戻ってきました。

その日から毎日、
以前よりもがむしゃらに

人の役に立とうと
頑張って働きました。



そんなある日、

また先輩介護士が
担当していました

あの利用者さまの
担当になつたのです



あの日のことを思い出し
ひるんてしまふさとっちゃんですが、
意を決して一步踏み出した
その時です。



あの利用者さんがにっこり
笑ってくれていたのです。

そして、

「いつもありーがとね。」

そうなのです。

さとっちゃんの頑張りを
この方は見てくれていたのです。

さとっちゃんの頑張りを



この一言に
さとっちゃんは
救われました。



それからというもの、
さとっちゃんは
人の役に立つために
「こうぞのさと」で
一生懸命に働きました。

あとがき

このお話は実際にあつたことを一部脚色して話をまとめました。

誰もが一度は体験する「壁」、

それは、その人に乗り越えられるからこそ現れる「壁」だと思いますか。

ひとりで乗り越えられるものから

誰かと一緒に乗り越えるものかもしれない。

それはきっと誰にもわからないけれど

その「壁」や「体験」はきっと人として成長できる
ものだしであると思うのです。

そして、そんな「壁」や「体験」が

この「河渡の郷」にはたくさんあります。

それを一緒に乗り越えてくれる仲間が
たくさんいます。

この本を読んで少しでも興味を持つただれでもない「あなた」。

一緒に「河渡の郷」で働いてみませんか。